

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2018年1月19日
第4号（通算第10号）
教育指導課教育課程係

「主体的・対話的で深い学びにいざなう教師を目指して」

■ 仙台市立広瀬小学校（授業研究・講話）

10月16日（月）に、仙台市立広瀬小学校（真壁 淳一 校長）を会場として研修会を行いました。当日は、慶應義塾大学の鹿毛 雅治 教授から「主体的・対話的で深い学びにいざなう教師を目指して」をテーマに、下記のような内容について講話をいただきました。

- 教育的意図を背景として、学びに引き込む「場の教育力」を創出する教師を目指す必要がある。
- 主体的・対話的に深く学ぶ授業には「表現の豊かさ」「知情意の一体化」「学びたいという気持ち」「『学びがい』のある教室」が欠かせない。
- 「子どもが没頭する姿」を、「答え」より「問い」を、大切にする授業づくりに努めることが大切である。



参会者からは、「思慮深く分別がある子供たちを育てるために学習の量から質への意識を高めることが大切であると感じた」「楽しい、興味深いという思いが生まれる授業を目指していきたい」との感想が寄せられました。

広瀬小学校では、今回の研修会で学んだ指導のポイントを踏まえ、**1月25日（木）**に松原香奈子教諭（2年生活科）、川島瑞記教諭（6年総合）の研究授業を公開する予定となっています。鹿毛教授にも再度御講話をいただく予定です。是非御参加ください。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

■ 仙台市立五橋中学校（授業研究）

11月15日（水）、仙台市立五橋中学校（岡崎 徹 校長）を会場に、授業研究会を行いました。高階 絵理先生が「カーテンの向こう」を題材に1学年道徳の授業を行いました。当日は、仙台市内から約50名の先生方が来校し、授業を参観しました。授業後には、ワークショップ形式の授業検討会を行い、授業の成果と課題について検討しました。

授業検討会では、教育センター大黒 知行指導主事から「道徳の教科化に向けた授業づくり」をテーマに、次のような指導助言がありました。

- 道徳の授業においては、教師が「思いをもつこと」が重要である。
- 教師の生徒に対する発問・投げ掛けは、多様な考えに触れさせるための多面的・多角的な視点が欠かせない。時間配分を考えなければいけない。
- 「主体的・対話的で深い学び」とするためには、自分とのかかわりで考えさせ、自分を振り返らせる、意図をもった授業としていく必要がある。



参会者からは、「グループでの話し合いのさせ方や授業の進め方、生徒への声掛けなど自分自身に取り入れていくために良いイメージが持てた」「指導観が明確で、生徒に考えさせたいという教師の強い意志が伝わってきた。資料選定、提示の仕方など道徳の価値と合っていて力強い授業だった」との感想が寄せられました。

「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」

■ 仙台市立六郷小学校（授業研究・講話）

12月15日（金）、仙台市立六郷小学校（菅原 弘一 校長）を会場に、授業研究会を行いました。菅野 美香先生が「情報を生かすわたしたち」を題材に5学年社会科の授業を行いました。授業後は、関西大学の黒上 晴夫教授から「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善～アクティブ・ラーニング・パターンを使ってみよう～」をテーマに、下記のような内容について講話をいただき、カードを活用した演習を行いました。

- 自分から出発する学び（主体的な学び）を一人一人の考えを対話によって変えていくこと（対話的な学び）が知識を概念化していくこと（深い学び）につながる。そのプロセスが大切である。
- アクティブ・ラーニング実践者の日々のふるまい、授業の仕掛け、考え方を「アクティブ・ランゲージ・パターン」として示した45枚のカードを活用して、授業改善に生かす。

【カードの内容】

- A（15枚） 学びたい心を見つけ、育てる内容（A1～A15）
- B（15枚） 一段上へ引き上げる内容（B1～B15）
- C（15枚） ともに高め合い、変わり続ける内容（C1～C15）



参会者からは、『パターン・ランゲージ』のカードを見ていると、今の自分の中のもやもやしたものや、学級経営上の課題がはっきりした」「子どもの主体性を育て、子どものワクワクを大切にしていきたい」との感想が寄せられました。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

■ 仙台市立南光台中学校（授業研究）

1月15日（月）、仙台市立南光台中学校（遠藤 裕子 校長）を会場に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行いました。西村 豪先生が「天気とその変化」を題材に2学年理科の授業を行いました。授業後には、ワークショップ形式の授業検討会を行いました。教育センター菅原 徹指導主事から、次のような指導助言がありました。

- 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら考えを深められるような単元構成の工夫、授業構成が重要である。
- 「見通しを持つ」「振り返る」「次につなげる」視点を持つことが主体的な学びにつながる。
- 育成を目指す資質・能力を明確にし、「暗記・再生型」の授業から「思考・発信型」の授業へと授業を改善することが求められている。



参会者からは、「見方・考え方を働かせること」をそれぞれの教科等で考え、深い学びについて更に探っていきたい」「見通しをもった学びができるように授業の構造化について計画的に実践し、主体的な学びができるようにしたい」との感想が寄せられました。

【平成29年度 今後の全市対象 公開研究会予定】

- 1月23日（火） 高砂小学校 講師：宮城教育大学 吉村 敏之 教授
- 1月25日（木） 広瀬小学校 講師：慶応義塾大学 鹿毛 雅治 教授

参加希望者は
教育指導課へ
お申込みください。